

自動車図書館の存続を！～市民との共同の闘い

河村市長に宛てて要望書・署名を提出—わずか2週間で約5000筆の署名—

名古屋市職労教事支部・自治労名古屋教育支部／2010.2.26(金)

2月2日から、名古屋市職労教事支部・自治労名古屋教育支部が協同して取り組んだ「自動車図書館の存続を求める署名」活動が16日で一段落しました。16日までに、多くの市民の方からも協力をいただき、短期間に4860筆の署名が集まりました。

実質わずか10日間あまりの間に、多くの署名を集めることができたのは、サービス存続を求める市民の声が非常に強いことと、時間を割いて協力していただいた職員の皆さんのおかげです。簡単ですが、活動の経過について報告いたします。

●署名活動前の経過について

自動車図書館の廃止については、3年ほど前から教育委員会内部では話に挙がっていました。図書館当局からは、「徳重図書館完成後は廃止の方向で検討したい」と発言があり、職員団体側は、「廃止には反対」と意見を表明し、状況は膠着したままになっていました。

徳重図書館開館が来年度に迫る中で、今年度6月には自動車図書館の利用者アンケートが行なわれましたが、結果はなかなか公開されず、市民に対しても自動車図書館廃止について何の情報提供も行なわれないまま半年が経過しました。

利用者が何も知らないまま、廃止が既定方針となりつつあることを問題視した一部の職員が呼びかけて、10月中旬に会合を持ち、若い職員を中心に「自動車図書館について考える職員有志の会」の名前で、自動車図書館駐車場でのビラ配布と意見ハガキ提出を呼びかける活動を約1ヶ月間にわたって行ないました。状況を知った利用者からは、50通を超える意見が名古屋市に寄せられましたが、意見は無視され12月には名古屋市職労・自治労名古屋両職員団体に対して、教育委員会から公式に自動車図書館廃止の方針が示されました。

●協同での取り組み決定とメディアへの情報提供

厳しい状況のもとで、1月中旬に名古屋市職労からの呼びかけで自治労・市職労両支部が話し合いを持ち、自動車図書館廃止反対に向けて協同で取り組みを進めることを決定しました。

各メディアに資料を送付して情報提供を行なうと同時に、市議会への働きかけをおこなっていく事を決め、これまで作成した資料を10社に宛てて送付しました。また市政担当記者に宛てて何件かの情報提供も併せて行ないました。

情報提供の結果、中京テレビ・名古屋テレビ・中日新聞から取材の申込みを受けたことで、事態が少しずつ動き出しました。

1月17日に行なわれた予算のパブリックヒアリングでは、参加した市民から、自動車図書館についての意見が出されましたが、市長からは「利用が減っているのは事実」と冷淡な反応しかありませんでした。また、20日の市長交渉では、市職労・自治労共に自動車図書館の存続を市長に訴えましたが、市職労教事支部が作成した、全市の駐車場マップには関心を示したものの、やはり市長の反応は「これこそボランティアでやってもらわなければならない」などと発言され、サービス存続については冷たい答えしかありませんでした。

その後、1月25日の中京テレビ・28日の中日新聞・名古屋テレビに取り上げられたことで、ようやく多くの市民にもサービス廃止方針が知られるようになってきました。

●署名活動への取り組み

1月末に、再度今後の取り組みについて市職労・自治労で話し合い、2月市会開始までの短い期間ではありましたが、市民に呼びかけて署名活動を行なうことを決定しました。図書館を中心に職員に広く呼びかけて協力を募ると同時に、メディアに取り上げてもらうために2月6日(土)に各図書館での一斉署名を行なうこと、同時並行で、教育子ども委員会を中心に市議会議員への働きかけを行っていくことを決めました。メディアへの情報提供は自治労、市議会議員へのアプローチは市職労が中心になって行い、各駐車場での参加職員の集約は市職労が中心となっていきました。

利用者が代表者となってくれたことで、「自動車図書館の存続を求める利用者の会」の名前で署名を呼びかけ、両職員団体が協力する形で2月2日から署名活動をスタートさせました。また、ホームページを作成してはとの申し出が職員からあり、協力をうけて活動を知ってもらうためのHPを急遽立ち上げることもできました。

2月2日以降、16日午前まで、合計21ヶ所の駐車場で、職員団体の所属や加入・非加入を問わず、多くの職員の協力により署名を集めることができました。6日の一斉署名では鶴舞中央図書館をはじめ10館以上で取り組みを行い、中京テレビ・名古屋テレビ・東海テレビ・CBC・テレビ愛知の5社から取材があり、中日新聞でも取り組みについて取り上げられました。

またこの間に、公明党・民主党・共産党・自民党の各会派の市議会議員に働きかけ、自動車図書館の存続を訴えました。

署名活動を知った市民の方からの協力もあり、郵送や南図書館への持参などで多くの署名をいただきました。短期間の署名活動であることから、2000筆程度がやっとではないかとの当初の予測を大きく上回り、約5000筆の署名を集めることができました。職員団体の枠組みを超えた協同の取り組みであったことも大きな要因だったと思います。

当初、参加者集約で混乱があったことや、短期間で、120ヶ所の駐車場のうち21ヶ所しか回るができなかったことは反省点として挙げられます。もう少し時間があれば、もっと多くの声を届けることができたのではと残念に思っています。

●要望書・署名の提出ー市長の判断に注目

2月18日に、「自動車図書館の存続を求める利用者の会」の藤井紀子代表から、鶴舞中央図書館長に、河村市長宛ての要望書と署名が提出され、中京テレビ・名古屋テレビ・東海テレビ・テレビ愛知の4社から取材を受けました。

藤井代表からは「なんとしても自動車図書館を残してほしいという気持ちでいっぱい」「近くの人たちの交流の場にもなっている。これが無くなってしまったら、文化的な物は本当に遠ざかってしまう」と、サービスの継続を求める強い要望が出されました。

これまでの市議会への働きかけの結果、複数の会派から議会で取り上げたいとの回答をもらっています。ほとんど絶望的な状況から、市議会での争点になるところまでこぎつけられたのは、図書館を始めとする、多くの職員の方の協力のおかげです。今回の署名に込められた市民の声が市長に届くことを期待しています。ご協力ありがとうございました。